

野村忠宏君 オリンピック連覇 おめでとう

保健体育教育 教授
 岡澤 祥訓

本学大学院を昨年の九月に修了し、現在はミキハウスに勤務している

野村忠宏君が、シドニーオリンピック柔道六〇級で金メダルを獲得しました。野村君はアトラントオリンピックでも金メダルを獲得しているので、柔道の軽量級では誰も行ったことがないオリンピック連覇をなしたとげたことになりました。大学院一回生の時にはバリーで行われた世界選手権でも優勝しているため、名実共に世界の王者であることを証明しました。



アトランタからシドニーまでの四年間は、野村君にとって充実した時期であったのか、苦しみ抜いた四年間であったのかは野村君に聞いてみなければわかりません。アトランタで金メダルを取った翌年大学院一回生の時には、授業と柔道の両立に苦労していたようでした。二回生の時には修士論文との両立に、かなり苦しんでいたと思います。私は、修士論文の作成をいい加減にしたのでは、何のために進学してきたのかわからないし、満足できる修士論文を書き上げることがシドニーでの金メダルにつながると思ったので、厳しく接しました。野村君には過酷な要求であったのかもしれませんが、しかし野



村君はよく頑張ったと思います。修士論文は、「柔道選手の心理的適性に関する研究」を奈良体育学会発表論文集に投稿し、これを発展させて書き上げました。また、卓球王国や体育科教育にも、野村君の文章が掲載されました。このように、野村君は柔道だけでなく研究も頑張りました。まさに文武両道を実践したと思います。金メダルを手にした姿を見て、「野村なら両方やれる」そう信じてきて本当によかったと今思っています。よくがんばりましたね、おめでとう。野村君にシドニーオリンピックの感想などを聞いてみました。「試

合に関してはひやっとする場面はありませんでしたが、全体的に自信をもって試合に臨めました。大学院での勉強は、本当の意味での自由な形でしたので、常に自分自身の中から意欲を出してやっていたところがあるが大変でしたが、追い込まれないでやれたので、充実感をもって修了することができました。修士論文でおこなった柔道選手の心理的適性に関する研究は、その後の競技生活に参考になりました。自分自身もよく頑張ったと思います。シドニーオリンピックでの金メダルは多くの方々のお声援のおかげだと思っています。ご声援ありがとうございました。」

